

**製品名: インヒビン  $\beta$ -C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12615**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	INHBC
別名	INHBC; Inhibin beta C chain; Activin beta-C chain
遺伝子 ID	3626.0
SwissProt ID	P55103
免疫原	抗血清はヒトインヒビン $\beta$ -C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 80-129

**背景**

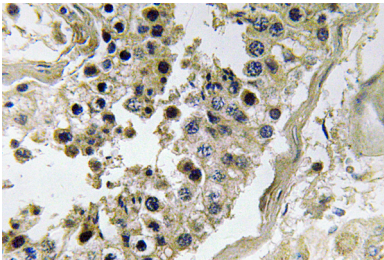
この遺伝子は、TGF- $\beta$  (形質転換成長因子  $\beta$ ) スーパーファミリーのタンパク質のメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、ホモ二量体およびヘテロ二量体のアクチビン複合体のサブユニットを生成し

ます。ヘテロ二量体複合体は、アクチビン A シグナル伝達の阻害に機能する可能性があります。この遺伝子を過剰発現しているトランスジェニックマウスは、精巣、肝臓、前立腺に欠陥を示します。[RefSeq 提供、2016年8月]機能: インヒビンとアクチビンは、それぞれ下垂体によるフォリトロピンの分泌を阻害および活性化します。インヒビン/アクチビンは、サブユニットの構成に応じて、視床下部および下垂体ホルモン分泌、性腺ホルモン分泌、生殖細胞の発達と成熟、赤血球分化、インスリン分泌、神経細胞の生存、胚の体軸発達、骨の成長など、さまざまな機能の調節に関与しています。インヒビンはアクチビンの機能に拮抗すると考えられる。類似性: TGF- $\beta$  ファミリーに属する。サブユニット:  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットが1つ以上のジスルフィド結合によって結合し、ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。インヒビンは  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットが1つずつヘテロ二量体を形成する。アクチビンは  $\beta$  サブユニットのみのホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。組織特異性: 良性前立腺肥大症で発現する。

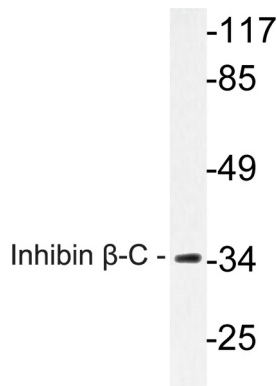
## 研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;TGF- $\beta$ ;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト精巣組織におけるインヒビン  $\beta$ -C 抗体の免疫組織化学分析。



インヒビン  $\beta$ -C 抗体を使用した A549 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。



インヒビン  $\beta$ -C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウエスタンブロット解析